

事業名 赤ちゃんふれあい体験講座

- 目的**
- (1) 中学生が、赤ちゃんと直接ふれあうことで、生命の大切さを学ぶ。
 - (2) 中学生が、保護者（母親など）から赤ちゃんや家族についての話を聞くことで、親子や兄弟など、家族のきずなを再認識する。
 - (3) 普段、ふれあう機会の少ない多世代の交流を深める。

実施主体 妙高市・妙高市教育委員会

参加対象 妙高市立新井南中学校、妙高高原中学校、妙高中学校 ※3年生

参加者数 107名

回数 3回 **日数** 3日 **時間** 約90分

場所

- ①新井ふれあい会館 集会室
- ②妙高高原保健センター 多目的ホール
- ③妙高保健センター 家庭保健研修室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	①5月27日（火）11時～12時25分 ②10月3日（金）11時～12時15分 ③10月16日（木）10時50分～12時20分	講話テーマ 「生命の誕生と赤ちゃんの不思議」	助産師 清水圭子様
1	内容・方法	生命の大切さを学ぶため、直に乳幼児とふれあう「赤ちゃんふれあい体験講座」を以下のとおり実施した。 ①自己紹介（生徒・親子など） ②赤ちゃんとのふれあい体験 抱っこ、おんぶ、あやす、オムツ替え など ③保護者から話を聞く 「赤ちゃんが誕生して、感じたこと」や「育児で大変だと思っていること」 など ④講話 「生命の誕生と赤ちゃんの不思議」 講師 助産師 清水圭子様 ※この間、親子は育児相談・情報交換に参加	

- 成果**
- ・ 少子化、核家族化により乳幼児とふれあう機会の少なくなった思春期の子どもたちが、乳幼児とふれあうことでいとおしいという思いを抱くようになった。
また、助産師による講話では、命の誕生やその尊さを学ぶこともできた。
 - ・ 保護者から育児についての話を聞くことで、子どもを産み育てる意義や家庭の大切さ、育児の喜びや大変さを学ぶことができた。

- 課題**
- ・ 赤ちゃんの存在なしには実施できない事業であることから、広く市民に周知し、ひとりでも多くの保護者に理解と協力を求めていく必要がある。
 - ・ 市内全中学校へと取組みを拡大していくためには、協力者の増加が必須である。

問合せ先 新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課（山本） TEL：0255-74-0034